

第5回 日タイ観光WGの開催

2025年6月17日～18日

会場：【1日目】現地調査（6/17） チェンマイ県メーオーン郡サンカンペン温泉、サンカンペン郡オンタイ地区オンタイファーム
【2日目】意見交換（6/18） メリアチェンマイ（日タイ逐次通訳）

委員：（日本側）【コアメンバー】 運輸総合研究所・奥田専務理事／アセアン・インド地域事務所（AIRO） 所長（共同議長）、富田AIRO次長
国土交通省観光庁：河田観光戦略課長

日本政府観光局（JNTO）：竹中企画総室長

在タイ日本国大使館：山川一等書記官（欠席）

日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所：中杉所長

【講演者】 ヤマシロカンパニー：伊東代表（前日本旅行業協会海外旅行推進部国際センター所長）

運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所（AIRO）：富田次長

（タイ側）【コアメンバー】 タイ王国観光・スポーツ省（MOTS）：セクサン副次官（共同議長）、ボンコトラス政策・国際部長

タイ王国観光・スポーツ省観光局（DOT）観光地開発課：アトック課長

タイ国政府観光庁（TAT）投資計画部：ラップクワン課長

コンベンション・エキシビジョンビューロー（TCEB）：スパウオンマネージャー

持続可能な観光のための指定地域管理局（DASTA）：ワッサナ部長

研究開発推進機関「タイ科学・研究・イノベーション」（TSRI）：スパワディ准教授

【講演者】 タイ王国観光・スポーツ省観光局（DOT）観光地開発課：アトック課長

タイ国政府観光庁（TAT）投資計画部：ラップクワン課長

【開催背景】

運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所（AIRO）は、2023年12月にタイ王国観光・スポーツ省（MOTS）と、日タイの相互理解の促進、相互交流の拡大、持続可能な観光の実現に向けて観光ワーキンググループ（WG）を設置した。第5回となる今回のWGでは、地方への誘客をテーマとし、「観光資源を活用した地方都市の持続可能な観光の実現を目指して～ウェルネスツーリズムを例として～」と題して、バンコクの北方約720kmに位置するタイ第2の都市であり、タイ政府観光庁（TAT）の地方誘客主要ターゲットであるチェンマイにて、現地調査を行った上で、関係者で意見交換を行った。

【現地調査概要】

1. サンカンペン温泉

（1）サンカンペン温泉の紹介

サンカンペン温泉は、チェンマイの中心地から車で東に約40分のメーオーン郡にある。元々農業用地だったものを、ラーマ9世が訪問され、ロイヤルプロジェクトとして1970年代から地熱エネルギーの研究が行われるようになった。1983年に地域資源の温泉を活かして観光地開発を開始し、2024年には約36万人の観光客が訪れた。うち2割弱は外国人で、国籍別にみると、多い順に米国、韓国、英国、中国、日本となっている。入場料等で得られた利益の一部は、周囲8つの村に分配され、持続可能な観光を目指している。政府の予算により、今後、新施設の建設を予定している。

（2）ゆで卵づくり・足湯体験

熱湯が吹き上がる間欠泉の近くでは、籠に入れて販売されている卵を温泉に入れて、好みの硬さのゆで卵を作ることができる。また、緑豊かな自然の中で足湯体験ができる。



ゆで卵づくり体験



足湯体験

(3) 施設紹介



温水プール



マッサージ施設



コテージ



土産物売場

2. オンタイファーム

(1) オンタイファームの紹介

オンタイファームは、サンカンペン温泉から車で約15分のサンカンペン郡オンタイ地区にある。12年前に移住してきた創設者が、有機農業・アグリツーリズムを展開している。

以下の3つのコンセプトがあり、健康で元気に過ごせば、生活の質も向上するという目標のもと、オンタイ地区の観光を開発している。

リラックス：自然やコミュニティと触れ合い、心身を休めたり、様々なワークショップに参加したり、自分のペースで過ごしたりする。

リトリート：温泉やマッサージ、ハーブ、マインド・リトリート、瞑想などを通して、心身を癒し、回復させる。

リチャージ：様々なアクティビティで観光客の健康を改善、滞在前後に健康診断を受け、どのような変化があったかを確認する。

(2) ウェルネス体験

オンタイファームから車で5分ほどの施設では、地元の人々が提供するタイ式マッサージ体験やハーブボールづくり体験ができる。



マッサージ体験



ハーブボールづくり体験

(3) 地産食材を活用した食事と伝統舞踊

オンタイファームでは、地元で採れた食材を活用した本場のタイ北部料理を味わうことができる。また、地元の方々による伝統舞踊を体験することができる。



地産食材を活用した食事



伝統舞踊

【意見交換概要】

1. 開会挨拶

(1) セクサン副次官

前回開催した第4回WGは、ASEAN加盟国がオンラインで参加でき、持続可能な観光開発のための地域共有といった我々の真意を反映したものである。今WGのテーマである観光資源を活用した地方誘致について、タイは温泉観光とヘルスツーリズムを発展させ、観光振興に結び付けることで地域への所得分配に繋がることを期待している。日本から学びタイの新世代に向けた観光に任せたい。



(2) 奥田専務理事・AIRO 所長

タイが推進するウェルネスツーリズムの代表例であるサンカンペン温泉及びオンタイファームを訪問し、ローカル文化、有機農業等の観光資源の活用例について現地の方々の温かいおもてなしの下、貴重な現地調査をさせていただいた。これまでのWG同様、観光地の具体例に即した、地に足のついた活発な議論を行いたい。



2. 有識者説明

(1) アトゥク・ブラセンムーン タイ王国観光・スポーツ省観光局 (DOT) 観光地開発課長

テーマ：温泉開発に関するガイドライン

タイは、世界的な高齢化社会の進行を背景にウェルネス市場が発展してきた。タイのウェルネス市場は世界ラン



クで24位と有望である。

タイ全土118の温泉地があり、DOTは王室指示の下、品質向上、エリア開発、ルート開発の促進に向け、スキルアップからPR活動まで取り組んでいる。

(2) ラップクワン・ジャルーンサック タイ国政府観光庁 (TAT) 投資計画部課長

テーマ：ウェルビーイング：ヘルス&ウェルネス@サンカンペン

タイはウェルネスツーリズムに力を入れている。サンカンペン温泉が優秀な観光地になることを期待している。

観光客の希望に添えるよう取り組み、環境の改善を継続的に支援している。観光客に新しい経験を提供するためには、製品・サービス向上、体験の質の向上、インフラ整備、セールスの促進が必要である。



(3) 富田 晃弘 AIRO 次長／主任研究員

テーマ：地方誘客に向けた各国の取組について

タイ、ベトナム、インドを対象とした持続可能な観光の研究について政策、課題、取組事例について説明した。

タイが推進するコミュニティ・ベースド・ツーリズム (CBT) の取組は、観光のみならず社会、経済、環境においても有効な取組であることを紹介した。

ベトナムの入場料等財源確保の事例にタイ側の関心が寄せられた。



(4) 伊東 和宏 ヤマシロカンパニー代表／前日本旅行業協会 海外旅行推進部国際センター所長

テーマ：地方都市誘客のための持続可能な観光に向けて～日本とスリランカのウェルネスツーリズムの事例から～

大阪・関西万博における各国の誘客活動や日本政府の取組、日本のインバウンド・アウトバウンドの概況、日本市場動向について説明した。城崎温泉、黒川温泉、スリランカの取組事例を紹介し、示唆としてマーケティング、地域への還元、ブランド化への取組の重要性に言及した。



3. 議論

現地調査を踏まえた意見交換

◇タイ側からのコメント

(TSRI スパワディ准教授) タイ式治療法は、アーユルヴェーダのように国際基準を目指していくべきではないか。さらに、温泉以外にも文化や食等の魅力があり、1泊に留まらず長期滞在を促進できる。

(DASTA ワッサナ部長) 一般の観光客がアクセスしやすいよう看板や道等の改善が必要である。ウェルネスルートとして

サンカンペン温泉とオンタイファームが同じ destinations というイメージで情報発信すると良いのではないかと。

◇日本側からのコメント

(ヤマシロカンパニー 伊東代表) 日本の旅行者はバスルームにすぐこだわりがある。コテージのお風呂に清潔感が見られなかったので、清潔さにも注意いただければと思う。新しく建設予定の施設案は素晴らしい。日本とタイの皇室は友好関係であることを踏まえ、現在予定している改修時には富裕層向けの宿泊施設があると良いのではないかと。さらに、レストランを作ったり、オンタイファームとの周遊を促したりしてはどうか。

(JNTO パンコク事務所 中杉所長) 元々地域にあるコンテンツを活用したサービス提供の結果、利益をしっかりと出しつつ、地元の方のウェルビーイングを実現しており、「住んでよし、訪れてよし」を体現している。このような地域の魅力をどのようにブランディングしてPRしていくかが重要である。

(観光庁 河田観光戦略課長) 日本では温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録しようとしている。文化的な価値として国際的な認知を得ようという動きがある。

(JNTO 竹中企画総室長) 地域の活性化、オーバーツーリズムの観点でも地方への誘客は非常に重要である。地域の魅力をいかに発信して広めていくかが鍵であり、地域の観光関係者が連携して、ブランディングや取組を進めていくことが重要である。

4. 閉会挨拶

(1) 奥田専務理事・AIRO 所長

次回以降も持続可能な観光と人的交流促進の実現に向けた考察と議論を深め、取組が両国の観光の更なる振興に向けて有益なものになることを祈念する。

(2) セクサン副次官

本日の議論は両国が持続可能な観光を目指す志を強く反映するもの。ウェルネスツーリズムは大きな可能性を秘めている。

本日のWGが、国際的な水準を引き上げ、高品質なウェルネスツーリズムの向上につながることを祈念する。地域開発において実践的な形で両国の取組を発展させたい。



オンタイファームにて